



三重縣三重郡 長酒井禮一依願

免本官一件

右謹行奏入

明治三十五年五月九日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

内閣

内閣書記官第二四番

五月廿五日

明治卅五年五月九日

内閣書記官

与

内閣總理大臣 齐

内閣書記官長 与

三重縣三重郡長 酒井禮一

依願免本官

内閣

三重縣三重郡長酒井禮一

依願免本官

右文官分限令第三條第一項第二

號前段ニ依リ謹テ奏ス

豆 明治三十五年五月七日

内務大臣男爵内海忠勝



内務省

病氣分退官致

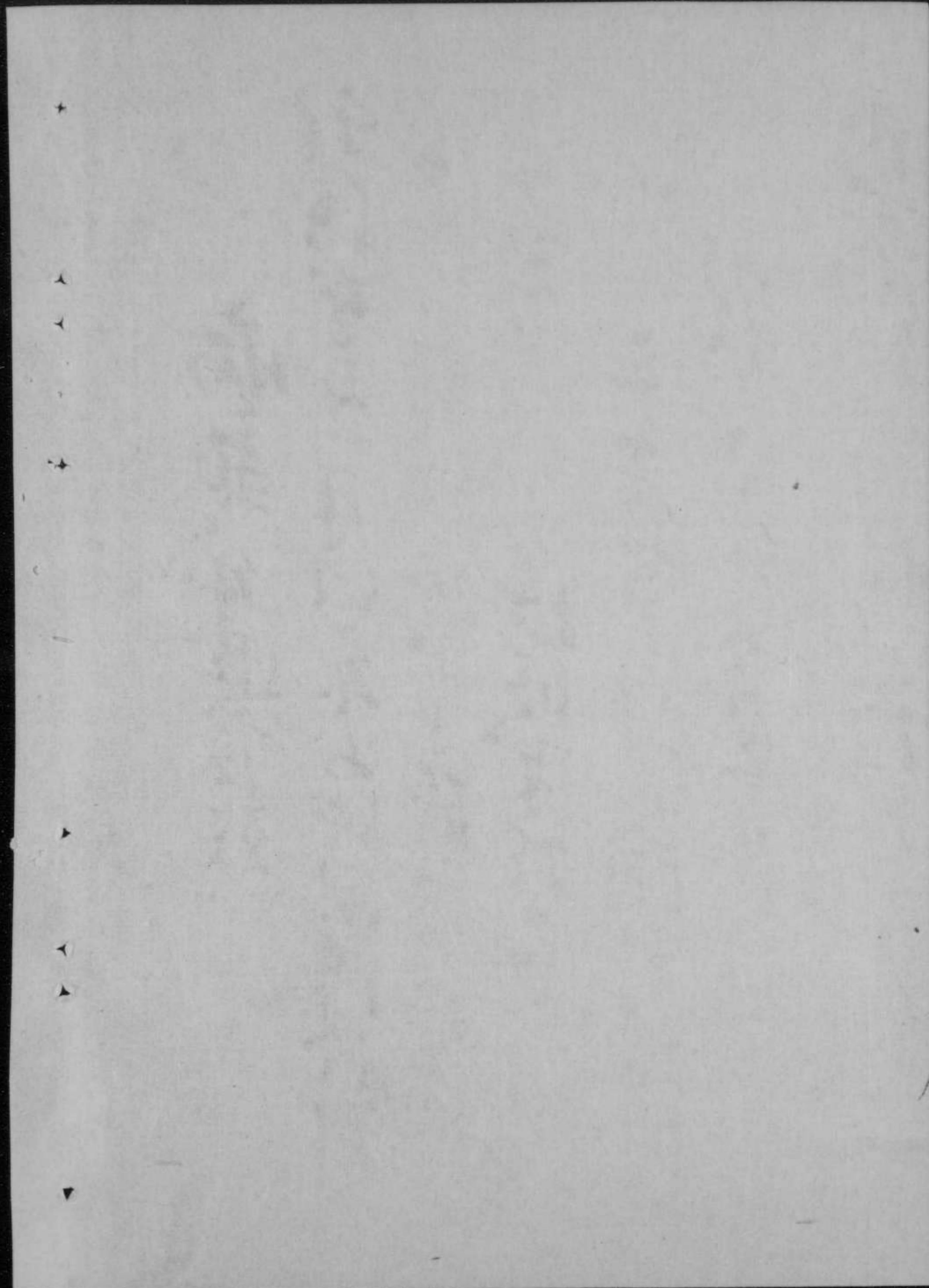
弘治元年二月以來お残医師所診別  
まゝの色赤腫病罹酸勢之種法  
いふる辞政付互け候事致り也

之を致し之を致し長瀬丹後一



弘治元年五月廿日

内家徳根大比伯爵桂左郎殿



診新書

酒井禮一

弘化三年十二月生

一病名 神經衰弱症

一原因 精神過勞

一忘候 常ニ頭痛アリ時々眩暈ヲ催シ身体衰弱、思考カ欠乏、心思沉鬱、消化不良、心悸尤進、手腕

振顫等ノ忘状アリ

一經過 本年一月以來四月ノ經過ス漸次増進、微アリ

一預后 不良ナリ目下容易ニ快復スル徴無シ

一療法 沃度加里、<sup>番木</sup>驚子丁、<sup>番木</sup>内服、電気療法、滋養

療法等ヲ施ス

右之通及診新候也

三重縣四日市市大字上新町六番地五

明治三十五年九月廿日

醫師

二宮鈴策



裏面白紙

内務大臣官發 甲第三一六號

別紙三重縣三重郡長酒井禮一免官  
ノ件上奏書進達ス

明治三十五年五月七日

内務大臣男爵内海忠勝



内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

内務省